



釧路川源流部の利用・保全推進事業
活動計画 ～持続可能な資源であるために～

てしかがえこまち推進協議会
エコツーリズム推進部会

釧路川源流部の現状と問題点

- ✓ 多くの体験事業者・釣り人・カヌーイストなどによる利用 過剰利用？
- ✓ 利用ルールの周知不足・利用マナーの問題
- ✓ 効果的なモニタリング・調査の未実施



釧路川源流部が持続可能な資源であるためには
適切な利用（観光面）と効果的な保全（環境面）の両立が必要！



目的達成のために今年度実施することは...

- 現状の問題点や利用・保全に対する利用者の意見を集約・明確化する。
- 利用者自身が保全の重要性を理解する。
- 問題点の解決策、持続可能な資源であるための手法を探る。

事業内容について 「釧路川源流部の利用・保全推進事業」

- 釧路川源流部ごみ清掃（シーズン前） 4月下旬～5月上旬頃

観光シーズン前に体験事業者を中心に釧路川源流部のごみ清掃を行う。あわせて、参加者にアンケート又は聞き取りを行い、現状の問題点・課題、保全に対する意見を集約し、事業者間で集約する。

- モニタリング勉強会（仮） 10月頃

「屈斜路湖・釧路川の水質」、「利用と保全の両立に向けた先進地域の事例」（案）について、体験事業者をはじめとした利用者自身が学ぶことで、自然環境の保全と持続可能な資源の重要性について啓蒙する。

- 釧路川源流部ごみ清掃（シーズン後） 10月下旬～11月上旬頃

観光シーズン後に体験事業者を中心に釧路川源流部のごみ清掃を行う。今シーズンの反省や改善点を踏まえ、来年以降の活動方針を検討し、目標を定める。

団体紹介

てしかがえこまち推進協議会
エコツーリズム推進部会

- 観光を基軸としたまちづくり団体（H20設立）
- 「誰もが自慢し、誰もが誇れるまち」が目標
- 8つの専門部会で活動 活動主体は住民

エコツーリズム推進全体構想

- 国の認定を受けた「エコツーリズムを推進するために定める地域の指針」。
- 北海道では初めての認定地域。
- 弟子屈町の自然資源は何かをきちんと定める。
- 利用で守るべき「基本的なルール」を定める。
- モニタリングを行うことを定める。

⇒自然資源の保全と活用の促進

⇒“地域のブランド力向上”が期待される。



エコツーリズムとは、地域にある自然・文化・暮らしなどの特色を地域振興や環境保全に生かしていく仕組みのこと。弟子屈らしいエコツーリズムのスタイルを確立し、次世代のためにも地域全体での取り組みとなるよう広めていくのが、エコツーリズム推進部会の部会目標です。

エコツーリズムによるまちづくりを

主な取り組み

- てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想に関する取り組み
- ネイチャーガイドの質の向上と養成
 - ・ てしかが野外活動スキルアップ講習会の開催（レスキュー講習会、リスクマネジメント講座等）
 - ・ アウトドアに関する映画の上映会



講習会の内容は、保険や法律に関することや新しい技術に関する座学のほか、レスキュー訓練を行うこともあります。

エコツーリズム
推進
部会

部会長
藤原 仁

◀ てしかが野外活動スキルアップ講習会では、座学や実技などを通し、ネイチャーガイドの質の向上をめざします。

